令和4年度「未来を創る学力向上支援事業」に係る第2回「習熟度別指導推進教員協議会(英語)」

【目的】令和４年度未来を創る学力向上支援事業に採択された市町村の習熟度別指導推進教員が、公開授業の参観や事後研究会での協議等を通して、個に応じたきめ細かな指導や学力向上に向けた授業改善の取組の充実に資する。

【期日】令和4年11月24日(木)13:45～12:05

【会場】宇佐市立駅川中学校

1. 公開授業

第2学年　SUNSHINE ENGLISH COURSE 2

PROGRAM 6 Live Life in True Harmony

＜授業者＞宇佐市立駅川中学校　教諭　古椎　陽子　氏

2. 事後研究会・グループ協議

■授業者より

〇本時では、内容をつかませながら理解を促し、文法事項を最後に押さえた。

〇何もない状態から英文を書くのは困難なので、書くための手立てとしてお題カードを準備した。

〇英文を全く書けない生徒へのアプローチが課題。

〇本時の最後に、受け身を使った英文を書く問題に取り組ませ、生徒の学習状況を把握した。

■質疑・応答

〇前時までの学習状況

→　振り返りで「受け身を使うことができた」と回答した生徒は86%いた。

〇指導内容

→　年間を通して習熟度別指導を行い、指導内容によって教科書本文や文法事項を扱う順番を入れ替えている。

〇生徒のコース分け

→　定期テストごとに、生徒の希望によってコースを決定する。希望したコースと本人の力に顕著な差が見られる場合は、本人と相談する。

■事後研究会・グループ協議

協議の柱「本時のねらいを達成することができたか」

グループ①	・「書くこと」という設定はハードルが高かったが、生徒の振り返りシートの見取りから、本時のねらいは達成できたと考える。 ・授業者が生徒の振り返りシートから、生徒の状況や実態をよく把握している。 ・意欲的にクイズ活動に取り組ませたり、生徒同士のインタラクションを行ったりする工夫がみられた。 ・生徒同士のやりとりを膨らませるために、クイズの出し合いはグループで行ってもよかった。

グループ②	・生徒がICTのログインのために待つ時間を、授業者がうまく活用していた。 ・導入時に生徒に興味をもたせるための手立てがあった。 ・ペアよりグループの形態でクイズ活動を行う方が、スローラーナーにとって取り組みやすかったと考えられる。 ・テーマをどのくらいの自由度に設定して生徒に書かせるかを考える必要がある。 ・本時のねらいが「書くこと」なので、書く活動の時間が多くてもよかった。 ・教えすぎたり示しすぎたりすると、生徒の思考を奪ってしまうので、授業者はどこまで準備をするのがよいか考えて活動を仕組む必要がある。

3. 授業実践の振り返りと今後に向けて

大分県教育庁義務教育課　　指導主事　田代　和馬

○教科書を活用して段階を追ってリスニングを行い、繰り返し音読をするなど、書く活動の前に行うことを大切にすること。
○文法に慣れさせた上で、有用性をもたせる指導をすること。
○生徒の学習状況をつかむための手立てを必ず設定すること。
○単元の終末に期待する生徒の姿を想定しておくこと。

4.習熟度別指導推進教員による情報共有

○各コースの指導者間で単元ゴールを共有すること。
○教科書の各単元の最後に設定されている活動を有効に活用する。
○先生が全て支援するのではなく、生徒同士が学び合う活動を充実させていくこと。